

「一方的な解雇・雇い止め通知を即刻撤回せよ！」



全日本金属情報機器労働組合 (JMIU)
日本アイビーエム支部
東京都港区赤坂2丁目20の6
川瀬ビル5F 〒107-0052
TEL: 03-3583-9037
FAX: 03-5562-0853

定価 月 500円

組合は退職勧奨から解雇通告へ移行した理由について会社に説明を求めましたが、会社は「当該社員が退職勧奨に応じた

会社は明言！退職勧奨に 応じなければ 強制解雇する

組合は、会社に対して、会社が行った当該社員への退職勧奨から解雇への豹変、それを受けてのロックアウトと産業医面談の強制キャンセルについて厳しく抗議し、これらの会社の行為が当該社員の体調を非常に悪化させていることを訴え、即刻、撤回することを要求しました。

8月26日、男性の部門人事担当が当該女性社員

憤慨する会社 女性社員の 個室呼出で

会社は、「解雇の決定はラインマネージャー、および、法務担当役員、社長、人事・労務（堤担当）も含めた会社の総意である」とする一方で、「人事はラインへ委託して当該社員へ解雇通知させている」と人事主導を暴露しています。

組合は解雇撤回要求の団体交渉を引き続き行います。

会社は勤務記録を 本当に保管して いるのか？

組合は会社の主張を確認するため、当該社員の勤務記録を要求しました。会社は提出を渋っていました。特定の期間限定で提出することを約束させました。

組合なんでも相談窓口担当者			
事業所名	職場名	氏名	電話番号
本社	SO事業推進・SOオペレーションズ	杉野 憲作	1812-2938
本社	価格計画・価格管理	石原 隆行	1712-9867
本社	I G A S. 東日本総務. 本社総務	山本 初枝	1712-3097
本社	ビジネス トランスフォーメーション コンサルタント	永基 正寿	070-6665-9697
豊洲	ネットワークサービス	古土 隆	1801-6802
幕張	ファイナンス・サポートセンター計画	橋本 雄二	1819-3039
大和	SWLAB. 第一・Lotus・T・Supp	田中 純	1243-2439
名古屋	I G A S. 東日本総務. 大和総務	塚本 辰博	1808-4320
大阪	P M C. 第二PMコンピテンズ	板倉 浩	1416-3264
大阪	G F S. 西日本L C M & S P デリバリー	山本 茂秋	1505-5420
大阪南港	S S O. 第三MFサーバーMGT	高岡 雅之	1612-6042
京都御池	システム開発・生産技術開発	古川 肇	
●組合事務所電話 03-3583-9037 火、水、金10時～16時			
F A X 03-5562-0853			
e-mail jmiu-ibm@i.bekkoame.ne.jp, HP http://www.jmiu-ibm.org/			

注)上記窓口は、事業所にこだわらず、連絡のとれる電話番号へどうぞ
弁護士 水口 洋介 03-3355-0611代
http://analyticalsocioboy.txt-nifty.com/yoakemaeka/
東京都新宿区四谷一丁目2番地 伊藤ビル6F
労働問題以外の民事一般についても相談受け付けます。
(お手数ですが電話により予約をお願いします)



岩手へ震災ボランティア

OB組合員 比嘉恒雄

9月19日〜22日の間、岩手へ震災ボランティアに行ってきました。及川さんという方が、今は使用していない一ノ関の生家を宿泊地として提供し、そこがボランティア活動の拠点となりました。及川さんはボランティア活動の面おもてくれました。

1日目 (9月19日)

自宅を10時すぎに出、上野から東北新幹線で一ノ関に向かう。迎えに来ていた及川さんの車で一関市室根町の宿舎に着く。この日の活動は何もなく、昨日から来ている3人、今日車で駆けつけた6人と合流し、計10人のボランティアと及川夫妻も含めて12人が自己紹介やボランティアの状況紹介で話ははずんだ初日となった。

2日目 (9月20日)

5時半に起床。朝食をとって、おにぎりの弁当を持ち1時間以上かけて陸前高田のボランティアセンターに着いた。受付を行い、グループごとに今日の仕事を指示される。仕事は被災された個人宅の草刈り。台風15号が近づいているので雨がひどく、今日は午前中で打ち切り」との説明を受ける。草刈り用具をセンターから借りて、車2台、8人で数キロ離れた現場へ向かう。1台のレンタカーに乗る。車も自分たちで調達しなければボランティアはできない。現場の個人宅の敷地は広く、草刈り場も広くて

6カ月後も津波の爪あと

台風が接近中で雨はどんどんひどくなる。明日は仕事が無くなったので、及川さんの案内で被災地をめぐる。

3日目 (9月21日)

今日は台風が近づく雨の中、陸前高田と気仙沼の被災地をめぐる。陸前高田は松林が海岸に沿いにあり、木造家屋のすべてが今は撤去されて



道路わきに重ねられた廃車の山

●陸前高田

無く、一部の鉄筋コンクリートの建物だけが残骸を残している。6カ月もたっているから道は整備されているが平地は地盤沈下で雨水がはけず車も通れないところも多い。この中心地の平地に住めないとすれば、山地を切り開いて住居を建てるしかなく、復興はかなり長期になると思われる。市役所も山地に仮庁舎を作って運営している。

●気仙沼

気仙沼は東北一の漁港で、多くの船が津波で陸地に上げられたのが特徴である。それらの船が陸地の建物にあたって破壊し、津波が引いた後も船の重油から何日も続く大火災が発生した。6カ月もたつがまだほとんど壊れたままの建物が放置されている。大きな船が住宅地のすぐわきにボツンと1隻残されている。異様な光景である。



倒れないよう「つかい」をされた船

4日目 (9月22日)

台風一過。一ノ関まで及川さんに送ってもらって帰路につく。

後日談

団交の翌日、会社は組合の警告を無視し、当該社員に離職票へのサインを強要してきました。これにより、当該社員の体調は深刻な状態になっています。組合は会社の行為に強く抗議します！

ハツマ

先日、作家の大江健三郎氏の呼びかけで原子力発電への反対デモが行われた。幼子を抱える身として放射能の危険には敏感にならざるを得ない▼最近、横浜市都筑区の堆積物から高濃度セシウムが検出された。全くもって対岸の火事では済まされない▼大江氏のような有名人に混じり、異色の存在がいる。藤波心さんである。ブログの原発批判記事が三日間で300万アクセスを記録し一躍有名になった「アキバ系B級アイドル本人談」。中学生の心から見た原発推進への疑問は目から鱗もの。最近では反原発のイベントにひっぱりだこでも、本来の仕事もこなしている▼B級アイドルだけに時間が使えようという世の中になつて欲しいと切に思う。エッセイ「14才のココロ」やアメーバブログをチェックし、家族で、子供と話をしてみよう。(N)

9・15 本社前に労働争議団が総結集

「雇用の確保」を訴える

9月15日(木) 17時50分からIBM本社前で「争議支援総行動」が行われ、300人以上が集結しました。スピーカー宣伝とピラマキ、シュプレヒコールを行い、会社の違法な退職強要に抗議しました。

26社まわって抗議

「争議支援総行動」とは、労働争議を抱える組合が相互に支援するため、各社の社前でスピーカーによる宣伝、シュプレヒコールなどの抗議要請行動を行うものです。この日は朝から5組に分かれ、合計26社を回って抗議行動を行いました。



訴えをする大岡委員長

大岡委員長は「永墓さんは子供4人を抱えた苦しい状況を訴え、訴えるたびに会社の対応が悪くなつて

IBM前に300人

IBM本社前ではJAL客室乗務員原告団事務局長の連帯挨拶の後、大岡日本IBM支部中央執行委員長が挨拶し、「雇用の確保」を力強く訴え、会社が違法な退職強要を継続する限り、闘い続けることを宣言しました。

さらに、退職強要・人権侵害裁判の木村原告団団長と、雇止め撤回を求める永墓さんが決意表明を行いました。木村団長は裁判が12月16日に判決をむかえることを報告し、会社の行った退職強要が認められなければ、最高裁まで裁判を続ける決意を表明しました。

参加者報告

はじめての各社争議支援行動への参加でしたが、各組合が抱えている労使問題が、より身近に感じられました。

- ・ **モーター製造O社**
会社側の若い担当者ひと悶着あったが、公衆の場で敵対するよりも、冷静に大人の対応してもらいたいものだ。
- ・ **情報産業F社**
玄関口に「シュプレヒコール、ピラ撒き、などの行為をお断りします」の立て札があったが、何も言われなかった。
- ・ **厚生労働省**
経験者を辞めさせて、新しい人を採用しているのは、効率を落とすとしても人件費を抑えるためだけかと思った。辞めさせることはニュースになるが、採用していることはニュースにならない。「辞めさせた分を補充しました」と公表してもらいたい。
- ・ **音響機器製造J社**
「私有地だから立ち入るな」が形式的ではなく、実際に実行されているのには驚いた。
- ・ **自動車製造I社**
駅からI社本社の玄関前までの歩道は植樹による木陰になっており、公園みたいでいいなと思った。周囲の環境はいいが、中でしていることはどこも同じだ。

雇用を守るために組合に加入を

皆さん、自分自身の雇用を守るために、組合に加入して一緒に闘いましょう！

最後に参加者全員でシュプレヒコールを行い、会社の違法な退職強要や組合攻撃に抗議するとともに、代表団による争議解決のための要請を行い、争議支援総行動を終えました。

機に端を発する経済危機に直面しています。この危機が現実化すれば、2008年のリーマンショック以上の人員削減が予想されます。経済危機がなくても、会社は「2015年ロー・ドマップ」にしたがって、8000人もの従業員の人員削減を着々と進めています。



IBM本社前に集まった大勢の支援者

9・17 過労死・過労自殺問題交流会でIBMの職場報告

メンタル疾患患者への退職強要

9月17日に「働くもののいのちと健康を守る神奈川センター」の主催で「過労死・過労自殺問題交流会」が開催されました。この会には、弁護士の方、労災の申請や審査請求をされている方々が多数参加しました。

組合は、代表が参加してIBMの職場の実態などについて報告してきましたので、かいつまんで紹介します。

「その結果2010年に生じたこと」
・ 大和事業所での100%子会社社員の自殺。
・ お客様サイト近くのホテルで社員が急死。

◆日本IBMで行われてきたことについて
1 働かせ方による問題
裁量労働制適用の拡大、36協定での時間外勤務時間拡大などにより社内お客様サイトを問わず過重労働、長時間労働へと従業員を追い込み過労死を招く状況を作っていることについての報告。

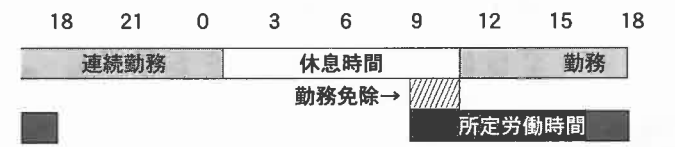
◆組合としての対策
1 「過重労働」
主要因である裁量労働制の健全な運用を会社にせまる。深夜・休日勤務時の手当を支払わせるようにしたが、お客様サイト常駐者の勤務管理・健康管理の抜本改善のため、認定基準の厳格適用を要求していく。さらに「勤務間インターバル規制」(図を参照)の実施も要求していく。

◆IBMのような大企業・グローバル企業の労働者に対する考え方についての説明
・ 同じスキルの人ならコストの安い国で調達し、人をコストや経費としてしか考えていないこと。
・ 大企業は「コンプライアンス」について、「法律で明確に禁じられていること」でなければやってもいい、文句がある

2 人事管理上の問題
PBC評価、PIP業績改善プログラム、パワハラ、降格・減給したり、週次の面談や自己都合退職を迫ったりする過程でメンタルヘルス疾患者が増加。ひどい場合には病休職者の自宅をラインや人事担当者が訪問して退職強要することによりさらに状況を悪化させていることについての

「勤務間インターバル規制」とは

労働者の仕事が終了してから次の仕事を始めるまでに、一定時間の休息を義務付ける制度。EUでは労働時間指令として「24時間につき最低連続11時間の休息時間を求める」と定められている。日本でも、情報労働者下のIT企業の一部に8-10時間の規制が労使合意の上導入されている。たとえば、休息時間を10時間と定めた場合、深夜1時まで勤務した次の日は11時からの出勤でよく、所定労働時間のうち休息時間終了までは勤務が免除される(賃金カットなし)。この規制により、必然的に一定時間以上の勤務をしないよう義務付けることになる。



初の外国人の人事トップが人事施策の発言 日本でも成長分野に人財シフト

日本IBM人事担当のロビン・スース氏が仙台で行ったラウンドテーブルで発言した内容がイントラネットに掲載されています。この中でROADMAP2015に触れ、人事の立場で次のような施策を考えていると発言しています。「日本のTURNAROUNDに向けても成長分野に人財をシフトします。SWG、BAO、クラウド、SOトップ100、zStack、インベスト・アカウントなどです」。この内容はまさしくこの分野にいない人たちの選別・リストラを意味します。もちろん成長分野にいる人たちも安泰とはいえません。インドや中国といった成長市場で人を増やす反面、日本では大幅に人員削減をすると宣言しているわけですから。日本の人事のトップが外国人となり、一株利益20ドルに向けてますますリストラに拍車がかかりそうです。組合としては、退職強要・人権侵害をさせないように引き続き闘っていきます。